

製品名: Smad2/3 (6F7) マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM03601**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% アジ化ナトリウムを含む PBS 液 (pH 7.3)。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100
分子量	Calculated MW: 52 kDa; Observed MW: 52,60 kDa

抗原情報

遺伝子名	SMAD3/SMAD2 SMAD2; MADH2; MADR2; MAD homolog 2; M hMAD-2; SMAD family member 2; SMAD 2;
別名	Smad2; hSMAD2;SMAD3; MADH3; hMAD-3; JV15-2; SMAD family member 3; SMAD 3; Smad3; hSMAD3;smad2/3;smad2+3
遺伝子 ID	4087/4088
SwissProt ID	P84022/Q15796
免疫原	-

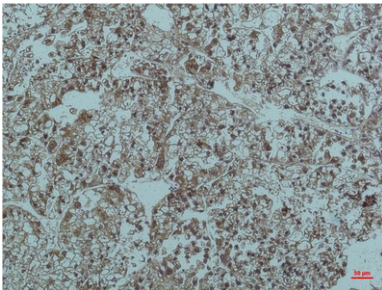
背景

シグナル伝達分子の Smad ファミリーのメンバーは、TGF- β シグナルを細胞表面から核へ伝える重要な細胞内経路の構成要素です。Smad には 3 つの異なるクラスが定義されています。受容体制御性 Smad (R-Smad) には Smad1、2、3、5、8 が含まれます。共通メダイエーター Smad (co-Smad) である Smad4 と、拮抗性または阻害性 Smad (I-Smad) である Smad6 と 7 です。活性化された I 型受容体は特定の R-Smad と会合し、保存されたカルボキシ末端 SSXS モチーフ上でそれらをリン酸化します。リン酸化 R-Smad は受容体から解離し、co-Smad (Smad4) とヘテロ多量体複合体を形成し、複合体の核への移行を可能にします。核内に入った Smad は、さまざまな DNA 結合タンパク質を標的として転写応答を制御できます。

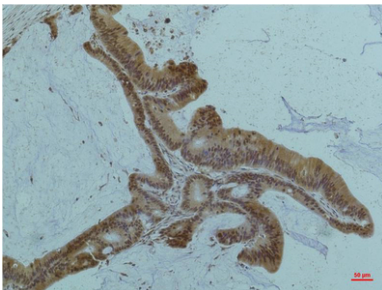
研究分野

シグナル伝達

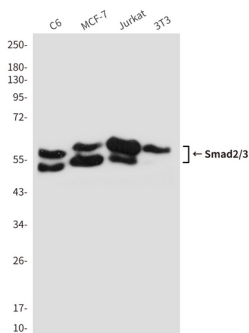
画像データ



Smad2/3 (6F7) 抗体を使用したパラフィン包埋ヒト生体 rTissue の免疫組織化学分析。抗原賦活化には高圧高温クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用しました。



Smad2/3 (6F7) 抗体を使用したパラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。抗原賦活化には高圧高温クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用しました。



Smad2/3 (6F7) 抗体を用いた C6、MCF-7、Jurkat および 3T3 ライセート中の Smad2/3 (6F7) のウェスタンブロット分析